

高校生用啓発教材「健康な生活を送るために」(抜粋)

第3章 薬物乱用と健康 乱用される薬物の種類



薬物乱用は一度でも犯罪です

薬物乱用とは、薬物を不正な目的や方法で使用することを言います。医薬品を医療目的以外で使用したり、医療目的にない薬物を不正に使用したりすることなども含みます。

乱用される薬物はいずれも依存性があります

●覚せい剤
中枢神経が興奮し、気分が高揚して、疲労がとれたように感じますが、薬が切れるとその反動で、強い疲労感や倦怠感、脱力感が襲ってきます。繰り返し使用していると、中枢神経に異常をきたし、幻覚や妄想を伴う覚せい剤精神病になります。大量に摂取すると死んでしまうことがあります。



●シンナー等有機溶剤
急激に酩酊状態となり、大量に摂取すると、呼吸困難に陥り死に至ります。情緒不安定、無気力となり、幻覚や妄想が現れて、有機溶剤精神病になります。

●大麻(マリファナ)
感覚が異常になり、幻覚や妄想が現れます。乱用を続けると無気力になり大麻精神病になります。生体機能の低下、月経異常を引き起こすとの報告もあります。



●コカイン
覚せい剤とは同じ作用を示しますが、効果が迅速で強烈です。大量摂取すると虚脱発作が繰り返され、死んでしまうこともあります。幻覚や妄想が現れて、コカイン精神病になります。



●ヘロイン
落ち着いたような気分を味わいますが、薬が切れると嘔吐や寒戦などの激しい withdrawal 症状(離脱症状)に襲われます。大量に摂取すると、呼吸困難に陥り、死んでしまうこともあります。



●LSD
幻覚が現れます。色彩感覚が高増し、空間が歪んだような感覚に襲われます。転落などの事故死の原因になります。



●マジックマッシュルーム
サイロシン、サイロシピンなどの幻覚を引き起こす毒素が成分として含まれており、LSDと似た作用を示します。麻薬原料植物として規制されています。



●MDMA
覚せい剤とはほとんど同じ作用とLSDのような幻覚作用があります。急性中毒で、死んでしまうことがあります。



薬物は別の呼び名(隠語)で呼ばれている場合があります

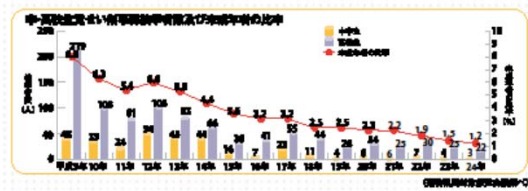
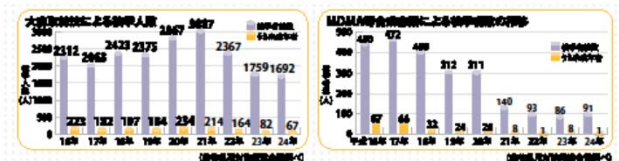
- 覚せい剤……………スピード、エス、シャブ
- コカイン……………コーク、クラック
- LSD……………アシッド
- シンナー等有機溶剤……………アンパン、ジュントロ
- 大麻……………チョコ、ハツバ、ハツシユ
- MDMA……………エクスタシー、エックス、バブ

(写真：関東地区厚生労働省薬政課 近畿厚生局麻薬取締部)

乱用される薬物は、いずれもとても危険な薬物です!



薬物乱用の現状



- 近年、青少年による覚せい剤事犯の検挙者数は減少傾向にありますが、大麻、MDMA等錠剤型合成麻薬事犯の検挙者の6割～7割を未成年及び20歳代の若者が占めていることから、青少年を中心に乱用されている状況が懸念されています。MDMA等錠剤型合成麻薬は、その形状等から使用に対する抵抗感が希薄になることから、これからの乱用の拡大には注意が必要です。
- 最近では、**違法ドラッグ**(いわゆる脱法ドラッグ)の拡がりも心配されています。違法ドラッグとは、麻薬などには指定されていないものの、麻薬などと類似の有害性を有することが疑われる薬物で、人に乱用させることを主な目的として製造され、販売されているものです。法律では、薬事法により指定薬物として規制されます。